

## 三俣蓮華岳遭難(2023年10月)

3日分の食料とテント装備を持って2人で「伊藤新道～竹村新道」を縦走計画。水晶小屋付近で道に迷い、5日後に1人が自力下山。翌日、もう1人はヘリで無事救助された。



## 解説

18日、伊藤新道、竹村新道という上級者向けのコースを1泊2日で行く予定。ところが、19日、午後5時過ぎ「もう1泊する」と家族宛てにメール。伊藤新道の最終地点・三俣山荘の近くで野営をした。

翌20日、竹村新道の入り口・水晶小屋付近まで来たものの、この辺りで道に迷い...午後4時ごろ、東沢谷という沢まで下りたところで行動不能に陥った。

23日朝まで2人で野営を続け、体力が回復した自営業の男性が稜線まで登り、野口五郎岳・烏帽子岳を縦走する形で、23日午後7時ごろ出発地点の七倉登山口まで1人で下山。その後、保護された男性が警察に野営場所を伝え、24日朝の救助された。

遭難した2人の登山歴はおおよそ1年と3年。スマートフォンの地図を頼りに行動していたものの、バッテリーを持っておらず電源が切れたことで道に迷った可能性がある。(HP参照)

遭難中に雪も降っており、よく、自力下山されたと思う。体力の回復を待ってからの行動だが、食料は持っていないと推測される。もう一人の仲間を助けるため、必死に下山されたと思う。バッテリーを持っていなかったり、読図技術については真摯に取り組んでほしい。何はともあれ、よかった。